



【2017-12-20】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『秋の田んぼを歩く』

長野修二

秋の田んぼを歩く

秋の田んぼは、黄金色にたわわに実った稲穂が刈り取られ、なんだかもの悲しさが漂っています。



秋の空気はさわやかで、風は心地よく田んぼを駆け抜けていきます。もの悲しさはあるものの、この季節になると田んぼのあぜ道を歩けるようになり、これまでの田んぼと違った景色をみることができます。とくにあぜ道や田んぼのまわりには多くの花が咲きほこり、それにつられるように多様な虫たちが集まってきます。秋の田んぼは、稲の実りから花や虫たちの賑わいの季節に変化していきます。

この地で稲刈りが終わるころには、田んぼの畔を彩る鮮やかな赤い色をしたヒガンバナが咲き乱れています。



そこにアゲハチョウなどが飛ぶ様子は、色彩豊かな風景を作りあげてくれます。

アゲハチョウはキアゲハやクロアゲハといったよく目にすることができる蝶ですが、鮮やかなヒガンバナに止まる姿は、わずかな時間自宅へ飛んできてくれるアゲハチョウとはまるで別物のように感じられます。

田んぼの周辺にある花から花へアゲハチョウが飛び交う光景は、本当に自然な絵をみるように心を和ませてくれます。



しかも、心なしかゆったりと飛んでいるように見えるのは自分の錯覚かも知れませんが、まるで自然を楽しむように飛んでいるように私には映ります。

さらに、多くの虫たちが畔に咲く花々に群れている様子は、小さな宇宙を感じる光景でしょうか。

ここでみるスズメバチは、ニュースでみる凶暴さなどどこにも感じることはなく、ただただ悠然と花の密でも集めているのでしょうか、一匹のハチの甲斐甲斐しい姿だけがそこにあります。

ほかの種類の手たちも、なにやらいそがしく花のうえを動き回る様子は微笑ましいものです。



アゲハ以外にも多くの蝶が飛んでいます、畔の花々は、蝶たちにと

って自然がくれたやさしい贈り物なのでしょう。

短い命の中でやさしく包んでくれる花は、蝶たちにとって自然のゆりかごのようでもあります。

秋の暖かな日差しの中をてんとう虫もいそがしく冬支度をしているのでしょうか、あちこち動き回っています。





畔に咲く花や雑草も夏の暑さから逃れて田んぼの畔や川の土手に一斉に咲き誇っています。

稲を刈り取られた田んぼの無機質な風景に代わって、この季節の主役は畔などに咲く雑草の花々でしょうか。

秋のさわやかな空気とすがすがしく晴れ渡った青空の中では、畔の花々は一段と艶やかさが増してくるのように感じるのは、私だけでしょうか。











このような田んぼの景色に囲まれて散歩できる秋の季節は、自然の彩を感じることができる素晴らしい日本の季節なのかも知れません。

11月になると近くの川にはオオバンたちやカモたちもやってきますが、そうすると秋は一層深まり、田んぼの季節は、彩をなくしたさびしい冬の季節へと変化をしていきます。



